新板
繪入

# 嚴德高業松

二之巻

へ13
3605
2

特
へ134
號 3605
巻 2

# 宗湛天満松

京都帝国大学附属図書館

## 第一

目録　春部の限

是へ同じく同じ家求る男達
よあけ小判ぞろひる山吹の瀬川
なぐさをる三年浦ひ異業乃
ぴんとわる海老義ぐさを紀

第二

新宮ゞ之巻へ相京打さ男之
ゝ人男のゝて相がそゝで用意
ゆあゝたそゝで母ゝぎふゝん
ゝぷゝくゝのゝあゝぎゝ大をれ変

第三

年ゝ世ゝ歩乃方便
計器にのゝく身ふ玉駒
いさゝふいゝんでゝゝゝゝ乃
いゝよゝるゝゝゝゝ小判の形

一 そをどうそれどう国家求る為信
春の小ゝへゆあゝ月てさゝよゝやゝんそへどうそれそどう。
どうゝんくゝもゝうゝてゝ。年ゝ世ゝどうゝきゝゝきゝへゆゝのへ
ちくぷゝくゝゝりゝゝとゝゝ品ふのゝゝてゝ公ゝ身ゝ場
月人ゝ自異毛乃腰帯のゝゝゝるゝ紙月ゝすゝゝ。家ゝ年ゝ社ゝゝゝ
ゝゝぷゝてゝゝふゝ月ゝくゝいゝさゝゝゝゝゝゝゝゝ乃ゝ
ゝゝゝの相ゝゝゝゝ米ゝゝゝゝゝゝ出ゝへ蜀ゝゝふゝ月ゝ男ゝ
ゝて情ゝゝくゝゝ料理人ゝゝゝ水滸ゝくゝゝゝゝゝゝゝ
家ゝ。道ゝ相ゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ耳ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うろたへくに様のまてとんくあて。そうあざるも雨で仕立ーあ
ぞうーぞうおそうふあそうれいせんでそうびけのやようての義とたが
姫ーうーうふあげ屋敷のあざやてやさぶ川屋の瀬川おの人玉澤
義代傳たぐおつまあめむ八文字。今屋動屋つ出むうしそい
まえ屋方たのあれたりつくいあそやく相方い二平相さうう
出入出あくびくあまちうのぞざるのくとさうぐい瀬川い紙み
男紙ちうとうとんるうぞうくくうのあはざるのぐでざんすと
そうに。動屋つえいちうぐあやまうゆてざうまする。えあ相
乃はる名いなーまねぞうねぞ。ぞうまるおさやうひあつまるいざうり
まねぞ。瀬川屋ようびまーてくれーのあくのくぞ二ちるもおよ
ーうあのびい米陽のみうね義ざうたざうーーようんとようや
とはねーあざうーーようーうれざ。おのあ四米遠ちうれありど。

尾ーと相あ江相義代傳相いあのあいあつまおゆうもーでひ
瀬川屋とのあ屋ーうあ。中二階みあまくく相が出ん金仁のぞ
のちうざちうつとゆーもりまーてあぎんと。ゆ義乃ーうー紙
くうあゆーてざうまする。ざあくくうあざーう。口紙屋や
ひとあの口供でまついざうりまねといあ尾ーいと瀬川ん
うれつとうとはのひあざーう。ぞくくのうれもちしねあくはとはると
ーつすやうーざざうあ乃うくーでいざんねうのくーいでさまで
いるざてもうくあーつあうーグ乃のうくまれんとおあのあ乃ぐ
きのざくぞ中ーうのあ義屋あーうれも。新ーさんのうくーて
ーうんちーあくあ義ざうれーつあ。房ーーやざーんーアイとうぐう
ーつくぞ紙屋男と乃くびのくれくー中ーにちのざ屋。女あ乃くーうあくく
義屋乃くあうりて尾ーと乃江義代傳い奥屋義くゆけべ瀬川くーと屋

やなかの
えんやらく
えんやらく


えんやらく
えんやらく

いろいろすがたのぶろにさやに中二階へであがりをる。たいこ女郎がさらだの小皿。いづも新の春にてれるめづー。屋敷おんなが金をれば。
紙ゑ男そろとあがりぶろの座ぶとにさしやく酒ろ
くんにゃりぶーイとのくくくくくくのびりつくくれどいやく裏へしーの
ゆ。このちやうんでらもんぶいさあーにてろぐろとかー。芸ぶ家おん
弁慶ぐりとをそろくのつとめぶろぐーうけーひろのすびまに
ひとくろ七ゑ弟にぶ中そてくうけるハちてもとれねぶてぶりに
つをぐーなどくハあがいすいぶ。ぶくのうよ一ねりいそぶさぶう
うけできたくべやりひみめくくれなくぶくにのすくくろすりと
こいりぶ。ゑをちめふんぶりみてうきろ。中二階よりたくふ。
うぶろハや七ゑるちろとにてゑりまやうぶくれもくくれねやに
なくくれやにのうりぶちゆべりて表さんよあんせまやうぶくと。

ゑのくくろーとてふぶうくくアイくくのゑてゆもくぶうの尾ろ
ゑくーぶつくくにあぶれ。瀬川声ゆてアイ仁のいろくろゆゆゑやアア
行くくにのくけくあーまやうとゆくんべ七ろうひろと宮身すんべ。
男の声みくくゑんくくれ仁ぶこゆゑゆくくねくふぶうくぶらまに
くけ出ーくゆるさにでんくゆにあひゆゑりくさんべいくれもくんどう
待出ゑくくとくくきーやうぶ出くくりくくにのいぶくにくいくーまやう
ゆんべどれとつくくけやうくくくーゑくれくくくくくくれぶうくゑ
みくくきぶうくくゆ。なゆちくくーゆうちぶの仁ゆくゑ名のみぶくくうくれゆくく
でくおいうぶのゆとつくくゑくくていやくくゑーゆのくくくくゆいう
きくどつゆくてんぶうくちくゆゑねんべるくくね和のくくれ換くくくあなま
くくれくぶくにのゆくけ。ゑぶくうれとくくに公ゆつくねがあやくう。
くくくーぶやのうくゆくやくくくくくく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゝあと。今は跡形もなくなりぬ。行く末の言葉
言ひもくくとよびて。酔ちして女房に分捕せられたぐゝこと。
淀川をとうぐとゝで中二階よりあがりてこゝを
絹糸してこの時もあまたび。今ふ眼づかゝこそれ。あくへうけかさ
ゞんとゝたゝ。侍とたるけありてきて。屋をさそれ。ちうの
太刀たる家屋敷の門家おれば。無体。大家。元うる。八用人
淀川の屋石垣。門家あるづ。ほうのがわく。
そのかゝぐものく。家屋。淀川のあくせべ
ちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。
ゝたぐ。ちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。
ゝぐ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。
又ゝあとゝたゝ。今の風。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。ぐちゝ。

あゝくこゝあでも多くてあるあゝでゝあゝ。
ゝゝでゝ男とゝぐくのでゝぐゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
なゞゝゝゝ淀川ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
分ゝけのゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。淀川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
分ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

(三) 新宮命が立ちあへ格子おくて男ぶて
大業妙典より七寶をそろへ行くてその寂第一と今紅と立てれば。
張りよりて地獄の沙汰も閻魔帳あの子ぐくめ。ぐしぷくえや
色黒のそろぶいつぐろうなる稚かあぐもひえひつつのべ宮のまへ
出家行ぶぐくぷいてくとおろて赤る今豊人に揚屋
そは池ろうあつて豆腐屋の米とぶいぷくとん在家の義
とうみぷくるるでおんとそつくあこうあてもぐでやく
出まる在家うぷいりくたまいれ家のつるぶつきれると楽せ。
あよあぐれくそすべぷくまみあーでかめでくんと。
追ふくふくたるてん。方須天皇つくまくふ判の威勢みは
出つくて化物もちぶぐしぷ。月ぷんね冠帯と感でしるる。海よ
餐あ入のそそろとあさ人情なるぶーぷ。音を動たつぐぶへ

中二階のあれこそあけく瀬川をうを出るたぶおつとつく十ろ一
三百あと収びーぐぷ今月月しあくぐて大そこみあのあ釈あも
そのみしあぐてのそそきぐ代つことあぐべてあたてひとふ
眼くれ。中二階のあるるお今れあくーあるれ格ぐあそくぐぐれば
ぐーめるそるれまへとい円ぷーこの角ふあるつくぐぐりくと
そぐれ小判を法松又力弟一あたあげんて色ぷぐ夕んくれ
くる津の字とたの字は格帯へあ出えのうけ色ぷ出家を十弟が
格帯くまぐれまーぷいるさの字は大立れもぐぐりくしる
小判と月ろふのそぐぷぷのあたの字の格帯あそくるり。海を
中二階そるあといふ代夕赤板みぐぷたをみて立のそ。ぷ月弟
神を弟あまぐれまーぷそんで出に人夕の山ーとんきあつぐすサア
ちへ出まいぷ組ぐりとつけくれきる色。縄ぐまんそこ人ぐぐ

ちりにしたがひてもとのごとくなるべし。
ちぐ〳〵なる人の姿あるの後ぞうんぬんとのこの出入はなしでも
ともかく。彼の相撲ぶりをけいこをさきのかりに相手つ二
こもごもうまくなん。相撲ぶりをすいと
そこでおのづから。淀のひくあるいは二階のあるものをえらぶまの
さうさるいるげあるべし。そもくこのたび拾人が今まのうち
相撲のはなはだ人あるとて。人の今ふもとさるべし。宮ゐ
をとびたるとやうつまたるみたるの相撲人身がおくれ相撲。拾でも
さべたのうでかはつくくまんと。相撲ちんでのくこのあ相撲ぶり
ふれぐ。まをたるぶ相さあさせんひとやこ小ぶぐーにかくもば。
大ふれたる人をひとるる名のあるとうとうをのやや今ふとうぐひさち
のこくーこ大飛人のぐしいあるまへサア相撲ぶれ。信中ーこう

ふ滝ぐーたぐつくかたべ。ぬかうぐつくてもちつのかが出来
くこるつ所ふ中二階の陸ふきくるとあけ。ぐそこぐうめ花ふの
布ふぐこんぐ人わたこ。ぐつのつるめくこの語ぐ上ぐこうとせそとと
こくれこく九ぐーみくこくこくこうこ。そこくこ后男のくこて相ぐさこぐ
ふのこ。ぐつこくこくとりふあるたぐ。滝ぐもふこ上ぐこうこ九ぐ、
この動きくこ名とやくへのるこ名ぐ。ぐこ名ぐ。ぐこ名ぐ。ぐ

ゑべすこしゆうづるてぶ後ろとどのこでもあこ人あこ海
さあやかろねぶと九よつこの後ふぼ乃ゑたゑの格下いづんが
あろろぶの大だけ出ごといへぶみ九ゑ乃ゑ出くきてぶ行めこ世よ
足ろりめあろ格下ぶれづゑ乃ゑ乃ゑ乃

とみのゑもすりをいれ女房にまぐくてをくてをさしてをくてをいれる。
はあは酒いとはかりつぶすまてをいれをくのはをあく
をくぶるうろをくをのうげをうををををあいをを
ををぐをぐ。酒いををあげつををくをげいををのをぐををををか
ちいをと見すをくおのをををもをををををををををををををを
見ををををををををををををををををををををををををををををを
いををををををををををををををををををををををををををををを
を

そむさん
ごくあんハ
えくぬ
うつそり
すのめが
えんの
ごじゃ
あらそうで
ござりまれ


むもんか
なあ
そのてん
くそもの
えれ
じゃ
そのてん
うけまれ
いろの
ちんとさま
ありまし
ごじゃ
あさでんた
じゃ

そなたより見たてごとに祝ひつかまつる。
鼻毛の数くよくよ数くさるべし。かまとあきけとの贅ぞかしー。
たてそなたを見そなたをひでくいつくのつ。あ一ケケければ上ひ行んな
そうぐそうつ。ひ吾しひ祝ぐぐ。ひの人々。

## 三 奉ようー世ようー出家の方便

ひ吾の声かくれりきこえ人物とまさつくあをそとんべ。日坂の
祝ひ吾と名のひしへ。帰とれ情申より長義ぐーてと長みな
恵りのこかくと大をも出家ふくと座すとうんべ。橋ひ吾なの
雑言を神家海部義めてそもセ長花ぼうしまいかみりうなかこと
ひとへの出種傳と祝うぼ。ひ人を人橋ひ吾長安花つま姫みな
おいをづけうの魚物とものぐーんべ意ーいくーのうもれ。ちよせん
祝い長とうもおーひ方の出吾れ面ひしてうふそうん。

七三郎がもか入るとんまの物でも意しと思ふの今ひ人をくて
祝ひ吾分うけのこめすうちうこ。ひ人ひ吾れうひ出家ひ日坂と人
とうてひ坂の坂ちまのひ出家ひうちうひ人。長吾の乳業
法村法眼の長花きふくと法村法眼ぞつま姫のかをとんをぞーか
きくあうんぼ。ひ吾さう業ひ。日坂と人をうのこ学家一打雷力
とうひとくのこんでも祝ひ吾分うもふひがぐひまさいせんとうん
のうひまーていぐうとんもセ長花と花づま姫ぼうんまいあひ
そのひれうの紙祝ひ吾へかと人とくく教化ぎれくーんセ長花
ひうんぐーう吾の出吾ーいとうひぼんも祝ひ吾ますひぐんとうも
ちうく花ひんをうーへ平法ひうりさうもんとうもうんとうも
業とうくこと大杜のひ家嘱ちふ神ようんもうりぐーとう十三郎
かひ分のこ人れ大ひとうひうひと祝ひ吾ちうくのこ吾ちーもぐーあと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こいつとらさせてくれんとぞ。弟たちとさーあげきれべの書りん
あるまつびの助たちつが狩かうくうんとぐらにいてくくくさう。
大立仕ちんぐらくとみこなくくうんをするるふ海老蛇松乃根
ひとゆとりゆとしべ根いるるうとるるぐ大みるへまつさる魚ふ
蒲あぐーぷてくいくゆぐくかれあぐりけとも乃ぐてあげうせ
くりけるるかくさぜん注をみるるーー須松みか弟。大蛸ちまを
るぐちんくてさせ。つとおれ魚どしくさあくのぐれねふ海蛇
蛇の検乃名をへ乃あるくいるりぐれとくくくを蛇蛇検乃
あ人家九にくりけくとくろしーー今紙くぐしーーなへいぐくるるーー紙九
その日おくーある今をあめく蛇ねとくを出くるる新ふ弟くん
ぐれるるぐくとくいぐ。るるを七弟出るひけいぐい激いくくうけか
せーーい物ふ新ふ弟くるるのいをるーとくあくどみれいまるく

その男ぐくる金あなぱおまたのまあ検弟ぐ作検弟くくくゆん。
検乃親方ふ門るぐくまくくるるまくくるるくくくるるくくくるるく

附り 男袴乃甘りと袴の袴あらい弱合と羽織子
及あるく偽名所尾鑑の作とふ大掛鯛

親仁形氣後編　近く出来

# 世間長者容氣　全五冊

嵐蓑で剣と弓の弦式に男ひも考る和歌堂
義二
俵より家と踏ゑ引くと二股道分奢ても精進物

右之通被自筆書扨〳〵ると綴之進有出〳〵中作者
堂度ちよと出たるる〳〵出自ひけりの出来るとうん
ちゑメ出ゆ有者軽上ゑ乙と

64681